

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170101186		
法人名	医療法人社団 内科小児科山脇医院		
事業所名	グループホームふたば まんようの家(1F)		
所在地	鳥取市国府町稲葉丘3丁目303		
自己評価作成日	平成30年6月13日	評価結果市町村受理日	平成30年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日	平成30年7月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・法人内の各事業所が開催する行事や催しに参加し、繋がりを深めている。 ・地域の行事に積極的に参加すると共に、町内会にも入れて頂き活動している。(納涼祭、清掃活動、防災訓練等) ・運営推進会議のメンバーが多方面、多領域で構成されている。 ・町内会の防災訓練と一体で実施し、緊急時においても町内からの支援がある。 ・畑での野菜の育苗、収穫などを通し活動の幅を広げている。 ・1日1500ml(水分制限のある方は含まない)の水分補給を行っている。 ・年に1度、セルフチェックシートを活用し職員のサービスの質を一定にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>地域密着型サービスの意義を踏まえ、地域とのつながりをとても大事にされた運営を心がけられています。地域の防災訓練に参加するだけでなく、事業所が行う訓練にも地域住民に参加してもらい、日頃から中の様子を理解してもらうことに努められています。また、運営推進会議にも、地域の方々がたくさん参加されています。</p> <p>職員と管理者の関係も良好で、サービスの向上に向けた話し合いが日常的に行われています。ホーム内はどこも明るく清潔に保たれ、利用者や職員の笑い声が始終聞かれ、温かい雰囲気を感じることができました。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「尊重・協働・共感」やすらぎのあるホームを目指している。会議や毎朝の朝礼の際に触れたり、職員室等に理念を掲示したり、職員一人一人がセルフチェックシートを用いて、理解、確認出来るようにしている。	運営推進会議での提案をきっかけに、グループホーム独自の理念を職員全員で1年かけて議論した上で作っている。そのため職員の想いも強く、誰もが常に理念を念頭に置いたサービスの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に可能な限り参加出来るように取り組んでいる。(公園の清掃活動、納涼祭等)日々の散歩を通し、町内の方々と顔なじみになれるようにしながら、防災訓練等を開催し地域との交流を深めている。	1階と2階で、別々に町内会に加入し、町内の行事等にも積極的に参加されている。また、地域の方々や中学生がボランティアに來られ、日常的に交流を図っている。	年4回発行されているお便り「ふたばくらぶ」を、町内会にも回覧して見ていただいているかどうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の研修や中学生の職場体験を通じて、認知症の理解や支援の方法について学んでもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催し、家族・町内・小中学校・消防署・行政等の代表参加の下、報告、意見交換、提言を頂いている。その場で出た意見を生かし業務改善を行っている。	運営推進会議では、行政だけでなく、地域の代表の方々に参加していただき、活発な意見交換が行われている。年に一度は利用者とともに昼食バイキングを行い、ホームの日常を実際に見ていただくなど、会議運営にも工夫をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	国府総合支所市民福祉課課長、鳥取市東健康福祉センター所長が、推進会議のメンバーであり会議を通じて相談しながら協力関係を築いている。	日常的に連絡を取り合うという事はあまりないが、運営推進会議や、イベント時等に協力をしていただき、良好な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	買い物等で職員が出てしまい、入居者9名に対し職員1名の場合、又は入居者の方々に危険が及びかねない時(夜間、早朝)は、玄関に施錠を行っているがそれ以外は見守りを重視している。身体拘束適正化委員会を起し毎月身体拘束について議論をしている。	毎年、身体拘束をしないケアに関する研修会を行い、マニュアルも独自に作成している。身体拘束等適正化検討委員会を立ち上げ、職員全員が正しく理解することに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新入職員のオリエンテーションにおいて、虐待防止の徹底を伝達している。また虐待についての資料提供を行い、且つ研修会参加の伝言等を通じて、職員に周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について全職員が十分に理解している所まで至っていない。今後学ぶ機会を設け、全職員ができるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料金表、利用約款等を元に、家族への説明を行っている。個人情報についても同意書を頂いている。介護保険の改定等に伴う料金の変更では、文章での通知と個別の相談により理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方の発言や、その場の雰囲気を感じ取るように努めている。ホーム内にご意見箱を設置し、意見出来るようになってい。年2回の家族会でもご意見を伺い、反映出来るように努めている。	ご家族の来所時には、積極的に会話をし、意見や要望をくみ取るようにしている。また、家族会を年2回開催し、意見が言いやすい場の提供にも努めている。そこで出た意見が運営に反映されている例がいくつもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会より月1回の業務改善会議に提起し職員の意見を聞く機会を設けている。個別でのテーマの話し合いが必要な場合には、代表者も参加し意見交換を行っている。	管理者と職員は、日頃から何でも話し合える良好な関係が築かれている。また、管理者が職員の意見を吸い上げ、業務改善委員会で代表者に伝える仕組みも整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	セルフチェックシートを活用し職員の個々の様子や仕事ぶりについて把握できるように努めている。また、管理者との面談を通じ、個々が働きやすいように職場環境などの整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年3回の研修会、又各部署で年4回のスタッフ会議を行っている。外部研修についても情報提供を行い、学ぶ機会を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会鳥取支部主催の相互研修に参加しており、交流を通じてサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談にて、不安な事や要望等を聞き取り、理解しながら関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活状況全般を含め、ご家族の思いや要望、不安な事などを聞き取り反映し、共有できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時において必須なサービスを判断し、他のサービス利用も含めたもっとも適した支援が、提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方の困り事や意見、思いを一人ひとりに問いかけるようにしている。職員だけで解決するのではなく、相談し助け合える家庭的な関係を築くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活での出来事や体調の様子など1か月に一度近況を手紙にて報告している。また、面会時にも口頭で日々の様子を伝えるようにしている。家族にも行事の参加を呼び掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り入居者の要望に応じた馴染みの生活が営めるように努めている。ご家族にも知人、親戚等の方の面会、外泊、外出が出来る事を伝えている。	利用者がそれまで大切にしてきた関係等の情報を、入所時にしっかり聞き取り、継続した支援ができるように努めている。誕生会は月ごとではなく、一人ひとり当日に行い、利用者家族の方々と一緒にお祝いをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話ややり取り、雰囲気を読み取り、職員は関係が円滑になるように努めている。また、孤立しがちな入居者には職員が間に入り関係構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	やむなく入院等で治療を要し、退去となった場合には、ご家族の意向を汲みつつ相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の表情や態度に気を配り思いや気持ちを取り汲み取るよう努めている。職員間で気づいたことは共有し支援を行っている。	日頃から一人ひとりの表情、しぐさ、言葉等にしっかり留意し、思いや希望、意向をくみ取るように努めている。また感じたことは申し送りノートや日報に記入したり、朝礼で報告するなど、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を元に一人一人の背景を知り、糸口が見出せるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者との日々の関わりの中で得た情報やその方の性格を基に、出来る事を見つける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族から聞き取りを行い計画書に反映している。ケア会議を3ヶ月に一回、モニタリングを毎月行っている。各担当者で情報を共有しケアプランに反映している。	本人や家族の意向を聞いた上で作成したケアプランは3ヶ月に一度見直し、変更があれば家族にも報告している。常に現状に即したものとなるように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や医療面、ケアの実践等の内容を個別に詳しく記入し、職員間で情報を共有して計画の見直しを図れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の病院が主治医の方は、2週に1回定期受診をしている。状態によって医師が往診に来ている。訪問看護にて、入居者の状態を把握し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議メンバーの中に、町内会長、民生委員、ボランティア、消防、行政、教育機関に精通した方々が含まれており、各見地からの発言を元に意見交換し、連携を取っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の大半は系列医院の患者でもある。入居時点で本人、ご家族の希望で同医院に変更される事もあるが、詳細を説明し同意を得ている。主治医が他法人であっても医療的な相談に応じている。	基本的に系列医院での受診が行われているが、希望があればどこでも適切な医療が受けられる支援を行っている。系列医院は認知症専門機関でもあるので、安心して受診していただける。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	系列の訪問看護の看護師に週に5日訪問してもらい、健康チェックや医療面での相談や助言をもらっている。看護師を通じて系列の医師や看護師と、医療面での情報を共有し連携を深めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	当事業所は入院したら退居となり、再申し込みとなる。入院時点で入居者の情報を病院に伝えている。場合によっては再入居となり、又系列施設での受け入れも検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の時点で先ず重度化、看取りについて説明している。その後は状態変化に応じて主治医、ご家族、事業所の三者で結束を密にし、状態の悪化や重度化の兆しが生じた場合には、治療方針や支援方法を話し合い、決めていくようにしている。	医療機関等との連携も十分にできており、終末期に向けた支援の体制は整っている。事業所としては、元気に自宅に帰ってもらうことを目指し、積極的に看取りについての話は行っていないが、状態に合わせいつでも対応できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用法等救急救命についての講習を、年に1回鳥取消防署国府分遣所と連携して行っている。職員全員がいざという時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、国府分遣所に派遣依頼を行い、夜間想定での避難訓練を行っている。町内会も参加し、協力体制を築いている。	避難訓練は年2回行われ、その内1回は夜間を想定して行っている。また町内会の訓練日と合わせて行い、十分な協力体制を整えている。備蓄品等について現在検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の方、一人一人の気持ちを尊重し、押しつけにならない関わり方や介護を徹底している。羞恥にさらさない声掛けや関わりをしている。	常に目上の方に対しての敬意を払った言葉づかいをするよう、全職員が強く意識している。 個人情報の流出にも細かく配慮し、メールでの業務連絡等を禁じている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重する為、問いかけでの声掛けに努めている。上手く自己表現が難しい方にははい、いいえで答えられるようなシンプルな問いかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の体調や気分を考慮し入居者一人ひとりのペースを優先する様心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の方に出来る事は、自身で行ってもらうように心がけているが、衣服を選ぶ際など職員が介助してしまっている場面もある。 2か月に1度理容師にきてもらい、散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をたてる際、入居者の方に問いかけを行っている。調理の下準備、盛り付け等入居者の方に手伝って頂きながら行っている。	献立は、毎朝その日の天気や食材を見て利用者と一緒に決めている。買物や調理も、利用者の出来る人が職員と一緒にしている。	食事は、利用者が最も楽しみにしていることの一つだと思います。朝決められた献立を、ホワイトボード等に記入して、誰もが見えるように表示してはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は毎日記録している。 水分制限のある方は、範囲内で1日のバランスが良くなるよう提供している。月に1度体重測定を行い、食事量の見直しや体調不良に合わせた食事(お粥、おじや等)等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けをし、自分で出来る方にはして頂いている。介助を要する方には義歯を洗うなどして支援し、1週間に1度洗浄剤を使用し清潔に保つことに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してトイレで排泄してもらう事を基本としている。失敗が少なくなるよう声掛けや介助、衣類の確認をして不快にならないよう努めている。	排泄パターンの記録を把握し、一人ひとりのリズムに添った支援が行われている。少しずつ自立の方向に向かっていった例も見受けられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、水分摂取の声掛けや食材の工夫を行い、毎日の体操を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に6日入浴日を設け入浴して頂いている。利用者毎に週3回、入浴して頂いているが、希望があればいつでも入浴して頂いている。	基本的に週6日午前中の中入浴となっているが、希望があれば対応できる体制が整っている。 入浴を嫌がる利用者にも、声かけの仕方を工夫したり、職員を替えたりしながらスムーズに誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転した生活にならないように、日中の活動を通して体を動かしたり、散歩をして外気に触れたりして生活リズムを整えるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は薬手帳に綴じ職員が把握出来る。服薬時は薬袋の名前を確認、声に出して複数の職員が確認し、飲み込みを確認している。薬の使用で変化が見られるときは、医療機関へ連絡し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や趣味、得意な事を発揮できる場を作り、楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週3回食材の買い物に、職員と一緒に車や徒歩で出掛けている。原則、毎日散歩している。ご家族から外出の申し出があれば、主治医の意見を聞き、外出して頂いている。行事を通して、入居者全員で外出するようにも取り組んでいる。	施設の近くに保有する畑に散歩に出かけたり、買い物を兼ねてドライブに出かけるなど、日常的に外出支援を行っている。 また、お花見や紅葉狩りなど、季節のイベントも楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している利用者はいませんが、職員と一緒に買い物に出かけたとき、欲しい物を伺い、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、要望があれば行っている。月1回職員がお便りで近況報告を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの各所に協働で作成した作品を展示している。また、季節感や親しみを感じられるように、四季を通じた工夫を行いながら、入居者の方々が不快に感じないよう温度管理なども行っている。	共用の空間はどこも清潔に保たれ、壁には季節を感じる展示物や、利用者の方の作品が飾られていた。リビングでは、職員との交流促進の一助としてBGMが流されていた。	入居者の方が利用されるトイレの表示がなく、わかりにくいと感じます。また、カーテンで仕切られているため、使用中かどうかもわかりずらく、安心して使用しにくいのではと思いました。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの一部が畳であり、横になったり本を読んだりとゆっくり過ごせる事が出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物や、趣味の持ち物など、いつでも使用できるよう安心して心地よく過ごせるように努めている。	どの部屋もきれいに清掃され、思い思いの写真や作品が飾られている。ベッドと畳の選択も可能で、自宅のように居心地よく過ごせる支援に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人の生活歴や得意分野を元に、生活全般で出来る事を見つけていけるように努めている。また、ホーム各所に文字の表示をし、出来るだけ自身で生活ができるように努めている。		